2019年（令和元年）
第141号
（9月1日）

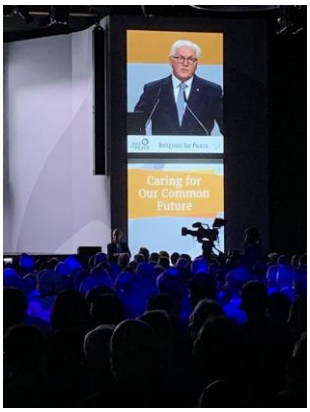
平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

「第 10 回世界宗教者平和会議」(WCRP/RfP)が開幕

８月 20 日から 23 日まで「第 10 回世界宗教者平和会議」(WCRP/RfP)の世界大会が「慈しみの実践：共通の未来のために――つながりあういのち」をテーマにドイツ・リンダウで開催され、１２５カ国から約 1.000 人以上が参加。京都教会からは、田中規之渉外部長と古田雅章同スタッフが参加しました。

開会式では、ドイツのフランク・ヴァルター・シュタインマイヤー大統領が挨拶に立ち「宗教は争いを正当化するものであってはならない。平和を実現するためのものであり、そうでなくてはならない。宗教は、人類の平和のために尽くすもの」と訴えました。



４日間の開催期間中、毎日行われた全体会議では、宗教者の行動指針となる「アクションポイント」が「共通の行動」として採択され、また、分科会や特別セッションなどのプログラムを通して、紛争後の赦（ゆる）しと和解、宗教間対話・協力、移民・難民問題、家庭内暴力、環境問題など、多岐にわたる課題について意見交換をしました。

２１日には、参加者が会議会場から近隣の公園まで平和の行進を行い、その後、地元市民も参加する野外での交流会も行われました。

２３日の閉会式では、さまざまな提言を基に起草された「大会宣言文」が読み上げられ、満場一致で採択。宣言文は、「暴力的紛争の防止と変容」「公正で調和のある社会を促進する」「持続可能で不可欠な人間開発と地球保護」の３つの大きな項目を掲げ、女性への暴力撲滅や、移民・難民との共生、核兵器の廃絶、気候変動への対処などに、宗教者として力を注いでいくことを表明しました。

また、ウイリアム・ベンドレイ事務総長の後任として、エジプト出身で国連人口基金（ＵＮＦＰＡ）社会・文化開発シニアアドバイザーのアッザ・カラム氏（５０）が、女性として初めて選ばれました。

1970 年に京都で初めて開催された世界大会も 10 回目となり、ドイツ政府の全面支援による開催や、女性事務総長の誕生など、新たな時代へ向けての方向性が示された大会となりました。　合掌

時事刻々

京都で日本最初の小学校が創られて今年で百五十年になります。明治になったころの京都では住民の自治組織である「番組」が設けられていました▼明治天皇が東京に移られ、人口が三分の二に減るなど、京都はすっかり寂れてしまいました。そこでまっさきに考えたのが、子供たちの教育でした。明治二年に各番組をもとに六十四の『番組小学校』が設けられました▼現在は子供の数が減って、番組小学校は統合され、新たな学校に変わっています。しかし、小学校のあった地区を『元学区』と呼び、住民自治の単位として残っています▼第二次大戦中、京都の小学校だけはお上のものでなく、軍部の思い通りにならなかったといいます。住民の寄付によって、学校の充実が図られてきました。ここにも住民の意識の高さが表れています▼今年も、夏まつりが行われている学区が多くありました。これら学区の行事は、住民の結束と自治意識の高さがもとになっているのです。

今月のことば　～「違い」があるからこそ～　宇治支部　文書布教担当　笹川和代

「今月のことば」を担当させていただきます、宇治支部文書布教担当、笹川和代です。佼成９月号の会長先生のご法話は「『違い』があるからこそ」です。

ご法話とパソコンを交互に睨みながら、この原稿を考えている私の横で、日本に帰国して２年が経ち、だいぶ日本語がまともになってきた中二の娘が「違いがあるからこそ世界がある」と言いました。どこか哲学めいていて、おっ？と思いました。

主人の赴任に伴い、タイのバンコクに７年間住まわせて頂きました。当時小学１年生と年中の娘二人は、諸事情によりインターナショナルスクールに通うこととなり、帰国までの７年間を、いろいろな国籍・文化言語・宗教が入り混じる環境の中で学ばせて頂きました。

クラスメートのお友達は、肌の色・瞳の色・髪の色皆それぞれ違い、ピアスはあたりまえのことだったり、また宗教によっては男の子でも髪の毛を伸ばしいつも束ねていたり・・・。面白いのはランチで、インド人の子は毎日カレー。アメリカ人の子はイチゴジャムを挟んだだけのサンドイッチ。タイ人の子はその家のお手伝いさんが道端の屋台で買って来た物を食べる。挙げればきりがありませんが、娘の話を聞くたびその多様さ、日本との「違い」に驚く私でした。

日本ではこうする、こう考える、と狭い視野で物事を見て、少し批判的な心が私の中に湧いたことも正直ありました。朝、学校に子供を送っていくと、小学３年生くらいの子がロビーで朝食を親に食べさせてもらっている姿を見て「どういうしつけをしているのだろう。日本では有り得ない」と思っていました。

会長先生は「他者との違いを認めて受け入れるには、私の心にも他を愛おしみ、慈しむ心があると自覚することです」と教えて下さっています。

保護者同士もだんだん仲良くなり、話を聞いていくと、渋滞がひどいバンコクでは朝早く出ないと学校に間に合わないので、６時には子供を車に乗せ学校に向かうのだけど、そこで朝食を取ると酔ってしまう。なので早めに来てここで食べさせているとの事情を聞き、同じ母親として子供に対する気持ちを共有させて頂けたのと同時に、一方的な見方をしていた自分を大変反省しました。

そんな多様性が日常の娘たちは、個性を個性として受け入れ、差別や批判など一切なく、当たり前に過ごしていました。また、それぞれの違いの中での自分、日本人としての自分を、子供なりに確立していっているようにも見受けられました。

ご法話に「外に向いた目を自分の心の内側に向けると違いが受け入れやすくなる」とありましたが、子どもたちは自然とそうしていたのかもしれません。違いを認め合うそんな子供たちの通う学校は、学年・男女の別なくみんな本当に仲良しで、とても楽しそうでした。そんな姿を見ていると、世界平和も夢じゃないと本気で思います。会長先生のおっしゃる「宇宙の真理は一相一味」。私も子供を見習って、できる精一杯をさせて頂きたいと思います。

最後に、「違いがあるからこそ世界があるって、どうしてそう思うの？」と娘に尋ねると、「だって違いがあるから、お互い助け合えるんじゃん？」という言葉が返って来ました。　合掌

第８回ありがとうコンクール　～日頃の感謝を言葉にのせて～

第８回「ありがとう」コンクールが８月15日～10月13日までの60日間、募集されることになり、教会法座席に応募箱と用紙が設置されました。

応募内容は「ありがとう」の感動を表現したもので、標語・川柳・詩など何でも可。一人一枚までで、支部名・作者氏名・性別・年齢を記入し、応募箱に投函となっています。

その後、推薦委員会において選考し、優秀作品には記念品を授与します。ぜひ、ご応募下さい。

戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日　～青年が戦跡を訪れ、子々孫々に…～

戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日の式典が８月１５日、教会法座席で開催され、帰省中の会員も含め、多くの会員が参拝しました。

式典は奉献の儀、読経供養、体験説法と続きました。

体験説法では、７月 13～15 日の中国慰霊訪中団に参加した大川浩市さんの発表があり、満州への開拓団として派遣された当時の様子や 1945 年８月９日に旧ソ連が満州へ侵攻した後の様子が報告されました。731 部隊罪証陳列館では、旧日本軍が残虐な実験を行っていたことを学び、ぜひ来年、青年にも参加して頂きたいと述べました。

もう一人、中嶋孝至さんは８月４～６日の広島平和学習に参加したことを発表。原爆資料館に行ったことや８月６日の式典に参加出来たことを通して、始めて広島に行っていい経験になったと結びました。

佐藤教会長はお言葉の中で、若い人が見て、聞いて、学んだことを、子々孫々にわたって語り伝えていくことが大切で、青年の皆さんがかつての戦争場所に行って体験することは、見聞触知皆菩提に近づくことだと述べました。

また、ある方がお供えに持ってきたものが、おさがりの際に戻ってきた体験から、お供えすることの意義に触れ、お供えするとは自分から離れることであり、ご供養もあがって、会長先生から頂いたものだと感謝して頂くことが大切だと述べました。

最後に、良い事をしたなら、忘れるという砂をかけられる、そういう菩薩になっていきたいと精進を促し結ばれました。

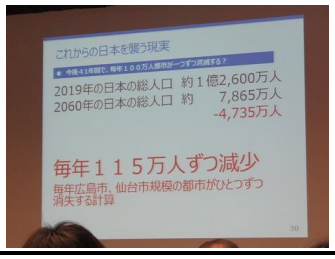
かめおか宗教懇話会記念講演　～「志」を持った人財で世界を救う～

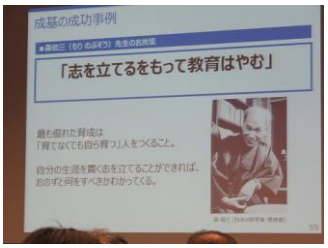
かめおか宗教懇話会（代表：宝積玄承　臨済宗妙心寺派東光寺住職）は７月 13 日、記念講演会を大本本部みろく会館で開催し、加盟団体会員を中心に多くの市民が聴講しました。

講師は佐々木喜一氏（成基コミュニティグループ代表兼ＣＥＯ、教育再生実行会議委員）、演題は「志（こころざし）共育が日本・世界を救う！－日本精神がピンチ－」とし、約 90 分間行われました。

佐々木氏は、ものづくりに成功した日本だが、人づくりに失敗した日本であると、「人財」「人材」「人在」「人罪」の違いを解説。いじめ・不登校・児童虐待が増え続けている現状をグラフにより説明し、自身も60名のひきこもりと関わり、その経験から幼児から引きこもっていたのは０名で、何かきっかけがあったと述べられました。8050 問題では殺人事件の 55%が親族同士という実態に参加者も衝撃を受けました。

これからの日本を襲う現実もデータを元に説明。その問題解決には高い志を持った人財が必要で、その中で「夢」と「志」の違いを解説。夢は個人のものであり、志は社会性のあるもの。つまり、「夢は医者になることです」に対して「志は医者になって困った人を救うことです」と。志は皆が本来持っているもので、それを育てることで、日本を救い、ひいては世界が救えると結ばれました。





日常生活の中の仏教用語　～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【安心（あんしん）】

普通、不安や心配事がなく、安らかな心でいられることをいうが、仏教では「あんじん」と読み、さとりの境地を表す言葉となる。信仰によって心の安らぎを得て、どんな物事にも惑わされることのない静かな心境だ。「安心立命（あんじんりゅうめい）」は、天命に身をまかせ、生死に関しても、動揺しないこと。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

庭野日敬開祖　法話集 ～開祖随感より～

「手をつなぐとき」

宗教にはそれぞれの信仰の対象、本尊がありますが、そのそれぞれの信仰対象やご本尊の優劣を論じて争うのは愚かなことです。もはや、そういう時代ではありません。すべての宗教は人を救い、幸福にすることをめざし、この世界を平和に導くことを究極の願いとしています。その点では違いはありません。

人類が核戦争の危機にさらされているときに、宗教者が互いの教義や本尊の優劣を競い、言い争ってなんになりましょう。 心を開いて、自己の改めるべきは改め、他に学ぶべきは学び、それによって互いに力を合わせて人類的危機に対さなくてはならないのです。

いまこそ人類全体のために貢献する宗教の原点に立ち返らなくてはならない時です。「私は、一つのことをしようとして失敗した。あなたも、何かをやろうとして失敗した。だが、手をつないでやれば成功するだろう」という言葉があります。そうした謙虚さをもって立ち上がることです。世界宗教者平和会議開催の真の意義は、まさにそこにあります。

「平和の種まき」

心の中で平和を願っているだけでは、いつまでたっても平和は実現しません。それは、たとえば種を納屋（なや）にしまっておいたのでは芽が出るはずがないのと同じです。

種は畑にまいてこそ芽を出し、それに水をやり、肥料を施すことで、花を咲かせ、実をみのらせます。平和も、その願いを一つ一つの行動にして積み上げていかなくてはならないのです。

ところが、そんな努力もしょせんはむだなことと、初めからあきらめている人がいるのです。人間の闘争本能は永遠に変わるものではなく、人類の歴史は戦争の歴史であり、それはこれからも果てしなく続くのだと、暗い面だけを見ているのです。そういう人に出会うと、私はナイチンゲールを思いだすのです。クリミア戦争で多くの看護婦を率（ひき）いて傷ついた兵士を敵味方の別なく助け、クリミアの天使と呼ばれたナイチンゲールの献身が、スイスの医師アンリ・ジュナンを動かして国際赤十字が誕生しました。

私たち志を同じくする世界の宗教者が力を合わせて平和のための世界会議を開くのも、まったく同じ精神です。お互いに出会い、対話を重ねることによって平和の種が芽を出し、多くの共鳴者を集めて大樹に育っていくのです。

「下り坂も一生懸命に」

米ソの冷戦が終わり、世界はすぐにも平和になるのかと思ったら、なかなかそうはいきません。湾岸戦争が火を噴き、東欧諸国やソ連で政治・経済の混乱が続き、日米間の摩擦も強まる一方といった報道が相次いでいます。

世界は危機的な様相をさらに深めていくのではないか、と危惧する人も多いのですが、こういうときにいちばん大事なのは、枝葉の情報に振り回されて大局を見失わないことです。世界の大きな流れを見定めなくてはならないのです。

ものごとは一気になるものではありません。川の流れも一気に流れ下るのでなく、右へ左へと大きく蛇行して海へ注ぎます。登山も、登り道だけでなく、ときには谷に下る道も一生懸命に歩かなくては、めざす頂上に着けません。世界が平和と安定へ、独裁から真の民主主義へと向かっていることは間違いない事実です。しかし、なんの努力もせずに平和は実現するものではありません。

人びとが宝の山へ向かう険悪道でへたばりかけたとき、化城を浮かび上がらせて人びとの気力を奮い起こさせたリーダーの役を、世界の宗教者が力を合わせてつとめなくてはならないと思うのです。　（つづく）

９～１０月の主な教会行事

9月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
10日(火)	9:00～	脇祖さま報恩会
15日(日)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
10月1日(火)	9:00～	朔日参り
4日(金)	9:00～	開祖さま入寂会
10日(木)	9:00～	脇祖さまご命日
13日(日)	9:00～	お会式・日蓮聖人遠忌法要
15日(火)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

７月18日に発生した京都アニメーションへの放火事件から約１ヶ月、国内をはじめ世界からも支援の動きがあり、改めて地元にこんなに素晴らしい会社が存在していたのだと知らされました。京都教会においても何かしないのかという声が会員さんからあがっているようです。教会の名前を出して募金をすることはもちろん大事ですが、近日公開される京アニ制作の映画を家族で観に行く、その輪を広げる、一過性ではなく継続的に応援していく、それが私たちに出来る事だと教えて頂きました。取り組んでいきたいと思います。